



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 宮島喜文

編集責任者 中井規隆

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1～3 日臨技支部医学検査学会開催報告（2）

P4 認知症を学ぶ～日本認知症予防学会主催「認定認知症領域検査技師講座」レポート～

P5 新たな検体採取業務には指定講習会の履修が必須です

## 日臨技支部医学検査学会開催報告（2）

平成26年度日臨技

日臨技関甲信支部医学検査学会（第51回）報告

学会長 羽角 安夫

平成26年度日本臨床衛生検査技師会関甲信支部医学検査学会（第51回）を一般社団法人栃木県臨床検査技師会が担当して、平成26年9月27日（土）・28日（日）に日光市鬼怒川温泉「きぬ川ホテル三日月」において開催しました。



内容は一般演題122題、ランチョンセミナー9題、イブニングセミナー4題、モーニングセミナー1題、各研究班企画は当会の次世代を担う会員が企画しシンポジウム3題、教育講演4題、R-CPC1題、その他日臨技企画1題、学会企画シンポジウム1題、特別講演1題と多岐わたりました。参加人数も会員、賛助会員730名、学生125名と多くの皆様に足を運んでいただき、天候にも恵まれ爽やか秋空のもとで会員皆様のご協力により大盛況でした。

今学会のメインテーマは「人は人を育てる」、サブテーマ「未来をみすえて」としました。臨床検査の世界から職人気質の先駆者が去りはじめ十数年、その経過の中で自動化、省力化そして検査部門の統合が進み、先駆者の思いを確かに継承しているかを再確認し、その思いが伝承することを願いました。

特別講演では国際医療福祉大学 副学長の桃井眞里子先生に「医療プロフェッショナルとして生きる」と題して教育に長く携わった経験から、人を育てるには指導者、そして最適なプログラムが必要であり、次

世代を担う人財に育ててもらうには、期待を明白に伝え、失敗は許容し、支援をすることが先輩の責務であると語っておりました。

学会企画シンポジウムでは、法政大学大学院能力開発研究所特任研究員の下田静香先生に「これからの医療人に必要な人材育成とは～コミュニケーション能力の重要性～」と題して意思疎通の重要性は「素人にその専門性を理解していただけるか」であり、如何に平易なことばで説明できるかとのことでした。また、関甲信支部から6名のパネラーに登壇していただき日常業務でのコミュニケーションスキルへの取組について討論していただきました。

日臨技企画では、日臨技 常務理事の下田勝二先生に「臨床検査技師等に関する法律改正（検体採取）」と題して、法改正の経過説明とこれから取り組むべき課題について講演をしていただきました。

特別講演、一般演題と時間帯が重なり参加者の入りが心配でしたが、予想を上回る多くの方にご参加いただきその関心の高さが伺われました。

各研究班企画は当会研究班長が趣向を凝らし、1都8県技師会の協力を得て、最新の技術から日常業務の問題点やフローチャートを用いての技術伝承そして各施設での人材育成の現状報告と幅広い分野で発表があり各会場とも大変盛り上がりおりました。

一般演題も同様に多くの参加者があり活発な意見交換がされていました。

企業展示は会場がホテルのため十分なスペースをとれませんでした。広告、ランチョンセミナーと多くの賛助会員のご協力が得られたことに改めて御礼申し上げます。

**最後に関甲信支部及び首都圏支部の会員、賛助会員はじめ当会会員の皆様、学生皆様のご協力があり当学会が成功裏に終わりましたこと深く御礼申し上げます**

# 平成26年度日臨技 日臨技中部圏支部医学検査学会(第53回)報告

中部圏支部長 山本 幸治

平成26年度、日臨技中部圏支部医学検査学会（第53回）が、一般社団法人富山県臨床検査技師会の担当において、富山県富山市の富山国際会議場にて参加者930名と盛大に開催され、終了されました。

本学会では、メインテーマを「アピールしよう!!」～臨床検査技師ができること、未来のために考えていること～と題して企画されました。



シンポジウムにおいては、各県の代表者が県全体で公益事業を通じて臨床検査技師の知名度向上と業務内容の紹介、さらに講演などで臨床的意義の啓発事業を行い社会的貢献の内容が報告されました。また、院内での臨床検査技師の業務と取組みについて報告されました。業務改善を日々考え診療に貢献している報告がなされ、参加者は大変参考になったと思われます。



現在の医療診断や治療において我々の業務は欠かせないことは言うまでもありません。しかし、社会的な知名度に関しては少ないのが現状であります。今回は、各視点から業務内容を通して、直接参加者に対し効果的なアピールを考えた企画がありました。一般参加者は、検査内容の説明を熱心に聞いている方が沢山みえたことは、一般市民も臨床検査の重要性

を感じている様子で非常に嬉しく感じました。さらに、我々が築いてきた道を次の世代に繋げる企画がありました。日常の検査業務を擬似体験できる検査体験コーナーを設置されたことは非常に画期的でありました。中・高校生は興味深く熱心に参加しており臨床検査業務に興味を持っていただいた様子でした。今後もこのような事業は職能団体としても重要な事業であると思われます。



教育講演では、「血栓止血制御の主要トロンビンを巡る話題」—凝血分子マーカーを中心に—と題して、富山大学臨床分子病態検査学講座教授の北島 勲先生に、文化講演（公開）には、「日本独特のデザイン発想—工芸とデザインの連続性」と題して、富山大学大学院芸術文化科学研究科教授の大熊敏之先生にご講演していただきました。



本学会に多数の会員が参加され学術、職能の両面からの知識を沢山吸収でき、充実した学会であったと思います。参加者の皆様が今回のテーマのごとく社会にアピールでき貢献できることを強くもち、日常診療に携わっていただくことをお願いしたいと思います。

最後に、本学会にあたり経済状況の厳しい折に広告、展示などのご協賛をいただきました賛助会員の皆様と、学会企画運営にあたられました今村伸一学会長をはじめとする学会実行委員の皆様ならびに富山県会員の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。今後とも中部圏支部学会の発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。



## 平成26年度日臨技

## 日臨技近畿支部医学検査学会(第54回)報告

兵庫県臨床検査技師会会長  
学会長 中町 祐司

平成26年9月20日(土)・21日(日)の2日間にわたり、神戸国際会議場において第57回日本臨床検査医学会近畿支部総会、第34回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会と同時開催いたしました。本学会には総勢1700名(会員・賛助会員、非会員、学生等を含む)を越す方々が集い大盛況のうちに終了することができました。



今回の学会のテーマは「臨床検査の innovation - The way of real professional -」でした。これは医療の場で本当に役立つ臨床検査技師とは何かを考え、改革していこうというものです。さらにITを駆使した新たな運営を目指しましたので、学会に参加された皆様には、今までの学会と少し違った趣に感じられたと思います。本学会は新たな試みとして情報交換がスムーズに行えるようにインターネットを利用してスマートフォンなどからの演題検索、演題に対するコメントの入力、各会場の進行状況や発表中のアンケートをリアルタイムで行えるシステムを開発して開催しました。

また近畿支部では全国に先駆け、検査に関わる3団体が同時開催(支部化以前は合同開催)を行ってきました。今回、参加された方々にアンケートを実施しましたが、「とても良かった」18%、「良かった」42%、「普通」40%、「あまり良くなかった」と「良くなかった」は0%、コメントには「是非今後も続けてほしい」という意見がありました。自分たちの世界だけにとどまらず、関連の知識を吸収しようとする意識は近畿支部の誇れるものだと思っています。

一般演題では英語のポスター発表を含め優秀な演題が数多くみられました。その中には基礎医学の研究の発表も見られました。改めて臨床検査技師が基礎研究から臨床まで広い範囲で活躍していること、また、これからは基礎と臨床のクロストークが必要であることを感じました。

シンポジウムや教育講演でも各会場で活発に討論が

なされました。特に一般検査の教育講演ではスマートフォンやタブレットを使用して、参加型スライドカンファレンスが行われました。会場で投票を行い、リアルタイムで集計した結果を反映させてわかりやすく解説していました。参加された方々から好評をいただきました。

特別講演(市民公開講座)では先日、世界で初めてiPS細胞を用いた臨床応用に成功された理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター プロジェクトリーダー 高橋政代先生と、臨床検査技師で京都大学iPS研究所に勤務されている徳野治先生をお招きして、iPS細胞を用いた再生医療の現状と発展の可能性や臨床検査技師のかかわりなどについてご講演いただきました。専門的な内容も含まれていましたが、一般市民の方々も約60名参加され、関心の高さが伺われました。会員にとっても、臨床検査技師が再生医療において重要な役割を担っていることが感じ取れたと思います。



兵臨技企画「臨床検査の innovation」では日臨技宮島喜文会長にもシンポジストとしてご参加いただき、日臨技企画とともにこれから本格的に始まる検査説明や業務拡大となった検体採取



に関する実質的な議論がなされました。

参加された方々が少しでもinnovation(意識改革)し、学術や技術レベルが向上し臨床検査の発展や医療を通じた社会貢献へ繋がっていただければ願っています。

また、2年後、2016年神戸で同時開催される日本臨床検査学会・IFBLS世界臨床検査学会・日本臨床検査医学学会にご参加いただけるようお願い申し上げます。

**結びに、本学会開催にあたりご支援・ご協力いただきました近畿支部各府県役員・会員ならびに賛助会員、関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。**

# 認知症を学ぶ

## ～日本認知症予防学会主催「認定認知症領域検査技師講座」レポート～

一般社団法人日本認知症予防学会が取り組んできた認定制度を発展的に継承し、本年度に創設された日臨技認定センター「認定認知症領域検査技師制度」はホームページにも掲載してご案内の通り、12月20日の第1回認定試験、来年2月開催予定の指定講習会などで、会員の皆様にも、認知症という先進国に共通する現代疾病にどのように臨床検査技師が関わっていくかについて考え、この認定制度に挑戦をしていただければと存じます。

今般、この制度上、受験資格や更新に40単位に位置づけられている同学会主催の「認定認知症領域検査技師講座」取材しました。来年以降の受講の参考になれば幸いです（同学会でなくても受講できます）。

\*\*\*

第4回日本認知症予防学会学術集会（平成26年9月26～28日、タワーホール船堀）に併設される形で9月28日にこの講座は開催されました。

同学会では、増え続ける認知症患者の対応に臨床検査技師の働き場は必ずあるという浦上克哉理事長の思いから臨床検査技師の認定制度構築に取り組んできましたが、予想を超える認知症の拡がりから速度を早めた形で認定制度を早急に運用するために、日臨技の制度として運用していただきたいという申し入れが浦上理事長から宮島会長に対して行われ、その後、準備委員会やWGにより急ピッチで制度設計がなされました。

この講座には22名が参加され、全体に学生を含む若い参加者が目立ちました。午前は患者ケアを主に担当する認知症予防専門士との合同受講での座学で、200名は入るだろう会場は満席でした。認知症そのものの最新情報を学びます。



開会挨拶をする浦上理事長

認知症は、昨年11月の先進八カ国会議（G8）の議題となったように2025年までの対策が急務です。講義の中で、イギリスでは「5年発症を遅らせることができれば患者数は半減できる」という考え方もあると紹介されました。この点でも検査による早期発見は有意義と思われまます。

10時40分からは技師だけが別会場で講義と実習を行いました。講義はこの認定制度が日臨技の制度へ発展した経緯が認定制度準備委員長の狩野先生（島根大学）より説明されました。

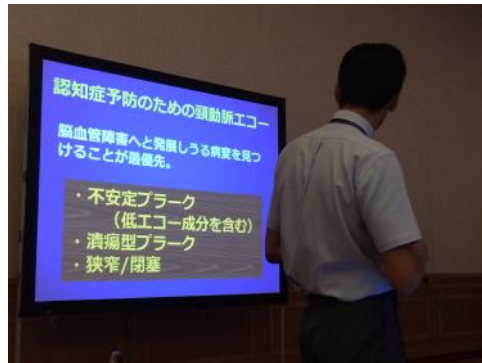
実習は3グループに分かれて3つのコースを体験します。

### 1) NIRS（光トポグラフィ）



自施設にない検査設備でもDr.の親切丁寧な説明で被験者役や検査担当者役を体験できる

### 2) 頸動脈超音波



エコーはお手もものの技師も真剣な表情で実習

### 3) フィジカルアセスメント



脈を測り、さらには聴診器を使って心雑音の聴き分けまでは初体験という技師も多い

#### ◇◇日臨技会員受講者の声から◇◇

・地域で認知症サポーターなどもやっていますが、今回参加して面白かったです。学術集会の教育講演も勉強になりましたし、身内に認知症患者もいてこの認定制度には期待しています（渋谷俊介技師）

・北九州や米子の講座にも参加しました。毎回少し内容が変わっています。日頃、接しない分野なので面白いです。認知症は知識としての背景をおさえる必要もありますし、関連する検査範囲が広いのでいろいろ学ぶ必要があります。他職種者も積極的なので、検査技師もこの分野にもっと取り組む必要がありますね（加藤正彦技師）



## 新たな検体採取業務には指定講習会の履修が必須です

臨床検査技師等に関する法律（以下「臨技法」という。）の一部を改正する法律（地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（以下「一括法」という。）が平成26年6月18日参議院本会議で可決、成立し、臨技法第11条に採血の業務に加え、検体採取の業務が追加されました。

改正後の臨技法第11条に規定する検体採取を行うおうとするときは、一括法附則第32条第1項の規定に基づき厚生労働大臣が指定する研修を受けなければならないとなっています。

なお、厚生労働大臣は一括法の施行日前においても研修会を指定することが出来るとされており厚生労働大臣は「日本臨床衛生検査技師会」が実施する講習会を告示指定する予定です。

指定講習会開催に向けて、準備作業を進めています。

第1回指定講習会の開催は、東京工科大学を会場に、平成27年1月10日、11日（2日間）でキックオフする予定です。

**指定講習会の開催要項の詳細については、日臨技HP上に随時掲載しますのでご確認をお願いいたします。**

### ◇日臨技として着手中の内容◇

#### ○検体採取等厚労省指定講習会（以下、指定講習会と略す。）の「修了者バッジ」デザイン公募

最優秀賞（1名）：副賞2万円  
優秀賞（2名）：副賞1万円

#### ○指定講習会の「キャッチフレーズ」公募

最優秀賞（1名）：副賞：1万円  
優秀賞（2名）：5,000円

#### ○指定講習会「実施要項」説明会を都道府県技師会単位での開催のお願い

都道府県単位で、理事会、所属長会議など広く会員に対する説明会を実施したい。

#### ○指定講習会の開催会場の手配

厚労省指定講習会であることから、厚生労働省地方厚生局（支所、分室を含む）9か所で実施する。

#### ○指定講習会の指定講習会事前登録のための日臨技HP及び研修会システムの改修

日臨技HP上の「会員専用サイト」、「会員メニュー」、「事前参加申し込み」のシステムに「検体採取等厚労省指定講習会」専用の参加申し込みサイトを構築する。

## 政策調査員を採用しました

ホームページで急募しておりました政策調査担当正規職員として板橋匠美氏が10月1日付で採用となりましたのでご紹介します。

当面、業務拡大に伴う講習会開催業務も担当いただきますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



新社会人となってから今年の9月末までは病院で臨床検査技師として勤務しておりました。千葉県亀田総合病院、東京都にある東京労災病院で主に病理検査を担当し、多くのことを学ばせていただきました。180度違った職種ではありますが、これまでに得た知識を軸とし、今後は会員の皆様を事務局で裏方としてサポートさせていただきます。御指導のほど、宜しくお願い致します。  
板橋 匠美

### （編集後記）

先日、部屋の机周りを片付けていたら『逃げ道リスト』というメモが出てきた。昔先輩から教えていただいた事だった。『① 安易にわからないと言う ② 人のせいにする ③ 都合が悪くなると黙る ④ 泣くことで許してもらおう ⑤ 怒ることで出来事から背ける ⑥ 嫌なときに病気になる ⑦ 「できない」という事でやろうとしない ⑧ 誰かがやってくれると思う ⑨ 途中であきらめる ⑩ 言い訳をしたり嘘をつく』 確かに気持ちが逃げているとき結構当てはまる。  
【中井】